

木材価格市況標準相場

令和7年11月5日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	6
東 海 材	1
南洋材・中国材	2
合 板	3
(2) 値下げ品目	1
北洋材・北欧材	1

○今月の市況動向

10月の荷動きは先月に比べて改善が見られ、東京木材埠頭の出荷量も今年最高となるなど明るい話題もあった。一方で、コスト上昇分を価格に転嫁できず、厳しい状況が続いているとの声も聞かれた。プレカット工場では、ビルダーや大手ハウスメーカーを中心に稼働が活発化しているものの、ビルダー向けの価格は特に厳しいとの報告があった。

(国産材) 秋田では、原木価格がウッドショック以来の高値となっており、製材工場の採算悪化が限界に近づいている。東海材では、注文材の動きは良く、桧スノコ板は久方ぶりに値を上げた。構造材においても、先月より荷動きは回復傾向にある。

(輸入材) 南洋材では、ラバーウッドおよびメルクシーパイン集成材が値上がり品目となった。セランガンバツについては、EUDR (欧州森林破壊防止規則) 施行前のヨーロッパ勢による駆け込み需要が報告された。

(合板) 3品目で値上がりした輸入合板では、首都圏の港湾倉庫で新規コンテナの受け入れに制限が出ている。11月以降も値上げが進むと予想される。国内針葉樹合板については、市場に大きな変化は見られず相場は横ばいだが、在庫の増加には歯止めがかかったとの報告があった。